

令和二年度 統一模試 中学二年冬期テスト (実施時間四十五分間)

国語

注意

- 1 問題用紙は六ページあり、これとは別に解答用紙が一枚あります。
- 2 監督者の指示に従って解答用紙を取り出し、番号と氏名を解答用紙及び問題用紙の決められた欄に記入しなさい。また、解答用紙の「QRコードシールをはる」と書かれたわくの中に、シールをはみ出さないようにしなさい。
- 3 監督者の「始め」の合図で始めなさい。
- 4 答えは、問題の指示に従ってすべて解答用紙の答えの欄に、はみ出さないように記入しなさい。
- 5 筆記用具は、HBかそれよりも濃いものを用い、文字がうすくならないように注意しなさい。
- 6 監督者の「やめ」の合図ですぐにやめなさい。

氏 名	
-----	--

次の文章を読んで、あとの1～5の問いに答えなさい。

私たちの南極越冬隊は、「よくまあこれだけ、いろいろな個性の人間が集まったもんだ」と思うぐらいに、個性の強い人間ばかりであった。で、私もしきりに「個性尊重」を口にしていたのだが、あるとき、一人の隊員に「隊長、個性尊重とは具体的にはどういうことですか」と聞かれて、グツとつまってしまった。つまり、個性尊重といいながら、私のなかにそれが問題意識として把握はあされておらず、まだ解決されていなかったからである。

あれこれ考えてみた結果、「個性とは変えられないものだなあ」という結論にいたった。「ああ、あれはああいう個性をもった男なんだ」と思い、さらに一歩進んで、「あれが、あの男の持ち味なんだ」になり、次には、「それなら、その持ち味を活いかして仕事を進めて行こう」となってくる。

個性が変えられないのなら、むしろ個性を尊重してやっていきたい。つまり、自分の型とか自分の理想像をまず柵たな上げして、欠点があるなら欠点といわれるものをじっくり見つめる。そうすると、その欠点をみ出させている元の個性が探し出せるので、それを長所になるように振り替えていける。「悪にも強いヤツは善にも強い」とよくいわれるが、異なっていることを認めた上で、持ち味の活かし場所を探し出してやるのである。それが、友達であったり、チームのリーダーであると思う。

古くから、日本の社会においては「和」ということがいわれてきた。しかし、私は南極で隊を編成するにあたって、知らない人ばかりを隊員に選んだ。なぜかという、なまじつ(註)か知っている人がいると、つ

20

15

10

い親しさから「おい、今晚一杯……」ということになって自分の部屋に連れていき、杯を傾かたけることになる。その人とは一層親しくなるだろうが、反対に離れていく人間が必ず出てくる。そんなささいなことで、派閥ははつなどができて争いになったのではおもしろくない。そのように考えたからであった。

しかし、この「和」という言葉のなかには、「個を殺す」という滅私奉公的なニュアンスも含まれている。a、組織のなかにおいては個性を殺すことが強いられ、それが日本の社会なり組織なりのなかで生きていくための知恵である、とする思想があるように思えるのである。

この思想をよくよく考えていくと、まずb性が前提にあつて、ひとつの組織のもとに集まったメンバーには「異質」が許されないことが分かる。個人個人が違っていることを認められないのである。その結果、身内だけで集まって少しでも毛色の変った人間やヨソモノをつまはじきしようとする、いわゆる排他的な意識が横行するようになる。

個々に見ると「おもしろい人だな」と思われる人間でも、それが組織の肩書をつけると、当たり障りさわりのないことしかいえない人に変わってしまうのは、このためなのではないだろうか。

この思想が嵩(註)じてくるとc的な活動は封じられ、会議などで新入社員が新しい感覚で何かを提案したとしても、「新米のくせに何をいつているんだ」とばかりにせつかくの提案が押し潰つぶされてしまう。また、他と極端に違う発言も、初めから問題にされない。不満やこう改善したいという提案は意欲の表れであり、進歩のための大切な要素

45

40

35

30

25

であるのに、それがなぜ出たのか、どういう目的で発言されたのか、その意図が汲まれようとせず、黙殺されるのみか、「異分子」というレッテルまで貼られてしまうのだ。

顔がそれぞれ違うように物を見る視点が違うのだから、異なる考え方があって然るべきなのに、どうもわが国の「和」の考え方には、習慣や既成の価値に主眼を置く作用が強く、「異質」が排除される傾向にあるようである。だから、個性を殺すと、「あいつもようやく丸くなった」などといって、仲間に入れてもらえるのかもしれない。

強烈な個性の持ち主が集団を離れて一匹狼になるのも、分かるような気がする。また、そうした個性の持ち主たちが、日本を離れて自分の活動の場を外国に求めるのも、現在の日本の姿を象徴しているときえ思えてくるのである。

いいたいこともいわず、ご無理ごもつともでやるのは、決して「和」ではない。いいたいことを大いにいいながら、お互いの考えや意見とか個性というものを尊重して、最終的には共同の目的に最も近いものを取り上げていく。そういう態度こそが、本当の「和」の精神ではなからうかと思う。

(西堀榮三郎「技士道十五ヶ条 ものづくりを極める術」による)

(注) なまじつか中途半端なさま。

滅私奉公私欲や私情を捨てて、公のために力を尽くすこと。

嵩じて高まつて。

異分子ある集団内で他の大多数と性質や傾向が異なるもの。

レッテルある人物や物事に対する特定の評価。

ご無理ごもつとも相手の言うことが無理でも反対せず、承知すること。

50

55

60

1 本文中の「a」にあてはまる語として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア だが イ さらに ウ だから エ つまり

2 線部①「個性を尊重してやっていきたい」とあるが、筆者が述べている個性の尊重の仕方として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 欠点の元となる個性を見つけて、その欠点を直してやること。

イ 欠点が大きいかほど長所も大きいので、欠点を伸ばしてやること。

ウ 欠点を個性としてとらえ、長所になるように活かしてやること。

エ 欠点は見えないようにして、長所に目を向けて伸ばしてやること。

3 本文中の「b・c」にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア (b) 同質 c 一般 イ (b) 同質 c 創造

ウ (b) 必然 c 一般 エ (b) 必然 c 創造

4 次の文は、線部②「異質」が排除される」を具体的に言い換えたものである。に本文中から十八字の言葉を抜き出して補い、文を完成させよ。

は仲間に入れてもらえない。

5 次の文は、線部③「本当の『和』の精神」について筆者の考えをまとめたものである。に五十文字以内の言葉を補い、文を完成させよ。

本当の「和」の精神とは、のことである。

次の文章を読んで、あとの1～5の問いに答えなさい。

バレエスクールに通う中学三年生の「理佳子（あたし）」と「舞」は、発表会に向けて、瑞穂先生の指導を受けながら練習をしている。発表会では、男性一人（田村先生）と女性二人（理佳子と舞）で踊ることになっている。

「おなかからそつてもダメ、ぐにやぐにやわらかいのとは違うの。」あたしは腹筋を上（みず）に引き上げて、肩甲骨（けんこうこつ）の辺りから上を思い切つてぐつとそらせてみた。

「それじゃ頭からひっくり返っちゃう。もう一度。」

一人で踊るときは、ここまで大きく上体をそらすことがないから、感覚がわからない。ただ優雅に体を傾けるだけの、こんな簡単な箇所がうまくできないはずがない。

「うん、そうじゃない。おへそはクロワゼ（注）の角度で、顔の向きは正面、腕もやわらかく。」

先生の注意を頭で理解して体に落とし込む。その伝達がスムーズにつながらなくなるまで繰り返す。今までこのやり方でできないことなんてなかったのに。

「ボール・ド・ブラの位置が正確なだけじゃダメ。」

何回やつても思うようにいかない。あたしの体はどうかしてしまつたのだろうか。それきり、パソコン（注）がフリーズしたように、あたしはぷつぷり動けなくなつてしまつた。立ち尽くしたままのあたしを見て、瑞穂先生は明るく気分を変えるように言つた。

「ちよつと、舞、やつてみて。」

舞はまさか、という表情で、目をぱちくりさせながら、気後れ（きおく）するように数歩後ずさりした。でも、瑞穂先生が本気だと知ると、田村先生の前に歩み出た。あたしは無表情でじつとその様子を見つめ、お母さんはビデオを回し続ける。

舞はなんともやりにくそうに手をアン・オー（注）に上げ、ポアント（注）で立つた。五番ポジションの甘い、不完全なシユス（注）。でも次の瞬間、舞の

20

15

10

5

体はごく自然にやわらかくなり、田村先生のサポートで美しい斜めのラインをつくつた。

「そうそう。理佳子ちゃん、わかる？ こういう感じなのよ。」

あたしが何度やつてもできないことを、舞が一度でできるなんて。舞をお手本に学ぶことがあるなんて。あたしも驚いたが、もつと驚いた顔をしているのは舞のほうだった。

そのときあたしのど元にせり上がってきた感情の塊（かたまり）は、最初悔しさや屈辱（くつじやく）感かと思つたが、それは喜びだった。さつきまでのいら立ちやもどかしさは消え、体の中心からやる気がわき上がり、全身に力がみなぎってくる。今まで一度も味わつたことのないこの不思議な高揚（こうよう）は、あたしに何をもたらそうとしているのだろう。

「リフトもね、今のままだとマネキン人形（注）を担（か）いでいるみたいなの。きれいなお人形じゃダメ、血の通つたバレリーナでないと。」

次々と浴びせられる手厳しい指摘は鋭く心の底をえぐり、なけなしのプライドをずたずたにした。けれど、その言葉こそがあたしの欲（ほ）ししていたものなのかもしれない。あたしは砂漠でのどをからからにした旅人が眼前に水を差し出されたように、体じゅうで吸収しようとしていた。

「もつと自然に、スムーズに……風がそよいで枝が揺（ゆ）れるように。花が開いて閉じるように、自然に、自然に。」

そういうえば舞は、シユスで斜めに傾けるポーズだけでなく、リフト（注）もピルエットも、何の抵抗もなくすんなり田村先生に身を任せているように見える。あたしとは何が違うのだろう。

舞は頭であれこれ考えて踊るタイプではない。踊ることが楽しい、バレエが好きだという気持ちだけで動いているように見える。舞にあつて、あたしにないもの。それは子どものような素直さかもしれない。懸命に瑞穂先生の言葉と形をたどる。全身から汗が噴（ふ）き出す。レッスンでこんなに汗をかいたのなんて、どれくらいぶりだろう。このスタジオが特に暑いのだろうか。

「もつと体を絞（しぼ）つて。ぞうきんを縦に絞り上げるような感覚、そうす

50

45

40

35

30

25

③ればポーズが立体的になるよ、ほら！」

あたしの肩や背中をがっちり覆っていた鎧が、はがされていくような気がした。夢か現実かはつきりしないもうろうとした頭で、王子様に手を取られて踊ったとき、クララのあたしはときめき、心から楽しかった。あのときのうっとりとした甘美な気持ちを思い出せばいい。

「そう、そう！ だいぶよくなったわ。その感じ、覚えておいてね。」

瑞穂先生がほっとしたように笑った。田村先生も、微笑んでうなずいた。舞は、今にも拍手しそうなほどうれしそうに見ている。まったく、自分のことでもないのに、よくあんな顔ができるものだ。あきれながら、あたしもつられて知らぬ間に笑みがこぼれていた。

流れる汗をタオルでぬぐいながら、今日のあたしはまるで舞みたいだと、なんだかおかしくなった。舞はあたしと交代でセンターに出て、また汗だくになっている。

「今の感じを忘れないように、もう一度やってみようか。」

田村先生が声をかけてくれた。この扉の向こうに行けるのなら、あたしは何度でもやってみる。

（梅田みか「海と真珠」による。一部省略等がある。）

（注）クロワゼⅡ斜めを向くこと。ポール・ド・ブラⅡ腕の動き。

フリーズⅡコンピュータなどの動作が突然止まってしまうこと。

アン・オーⅡ上。ポアントⅡつま先。

五番ポジションⅡバレエの基本的な足の置き方の一つ。

シユスⅡ両足をそろえてつま先で立つこと。

リフトⅡ男性が女性を持ち上げること。ピルエットⅡ回転。

クララⅡ理佳子が小学六年生のときに演じたバレエ「くるみ割り人形」の主

役の名。

甘美Ⅱ心地よくうっとりとした気持ちにさせること。また、そのさま。

1 本文中の□にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア しゅしゅ イ のこのこ ウ すたすた エ ずかずか

55

2 次の文は、——線部①について説明したものである。

Ⅱに適切な言葉を補い、文を完成させよ。ただし、Ⅰは本文中から十二字で抜き出して書き、Ⅱは本文中の語句を用いて三十文字以上四十文字以内で書くこと。

理佳子は、易しいはずのⅠの動きが思うようにできないことや、これまでうまくやれていたⅡ方法ではうまくいかないことから、いら立ちやもどかしさを感じていた。

3 次の文は、——線部②の後、理佳子が舞の踊る様子を見て気づいたことについて説明したものである。□に五字程度の言葉を補い、文を完成させよ。

理佳子は、□と思いながら踊った、うっとりとした甘美な気持ちを思い出せばいいと気づいた。

4 ——線部③には比喩が使われているが、同じように比喩を使って「理佳子が、瑞穂先生の指導を全身で受け入れようとしている自分の姿を肯定的にとらえていること」が表現されている一文を——線部③より前の文中から抜き出し、その最初の五字を書け。

5 本文についての説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 先生との意見の対立を一緒に乗り越えることによりはぐくんできた理佳子と舞の友情が、力強く描かれている。

イ 理佳子と舞が淡々と練習に励んでいる様子が、発表会を前にあせっている先生の様子と対照的に描かれている。

ウ ライバルだと思っていた舞との実力の差を思い知らされて落胆していく理佳子の心情が、克明に描かれている。

エ バレエがうまくなりたいと願う理佳子の熱意が、舞に対する様々な感情を交えながら生き生きと描かれている。

3

次の書き下し文を読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。

(注) 中庸に曰はく、^①言行を顧み、^②行言を顧みる。

いふ意は、言と行とは相違なかるべし。言を出すに、^③わが身の行を
(意味) (ないだろう)

かへりみていふべし。事を行ふには、^④己が言をかへりみて行ふべし。

いふことはやすく、行ふことはかたし。故に、言はひかへていひ、
(容易で) (困難だ)

行は言より過ぐすべし。かくのごとくすれば、言と行と相違なし。口
(超える) (このように)

にいふことあまり有りて、身に行ふことたらざるは、これ言行のそむ
(多すぎるのに) (十分でない)

けるなり。^⑤はづべし。
(ないのである)

〔大和俗訓〕による

(注) 中庸書名。

言言発言。

行行行動。

1 — 線部①「言行を顧み」は漢文で書くと「言顧行」となる。書

き下し文を参考にして、解答欄の「言顧行」に返り点を書け。

2 — 線部②「わが身」とあるが、これと同じ意味の語句を、書き

下し文中から漢字一字で抜き出して書け。

3 — 線部③「ひかへて」を現代仮名遣いに直して書け。

4 次の文は、— 線部④「はづべし」について、何を恥じるべきだと本文で述べているのかをまとめたものである。□に「発言」

「行動」の二語を用いて十五字程度の言葉を補い、文を完成させよ。

□ことは発言と行動が一致していないので、恥じるべきである。

4

次の— 線部のカタカナは漢字に直し、漢字は仮名に直して書きなさい。

1 フンマツスー^①プを準備する。

2 器に野菜をモ^②る。

3 あの歌手はオンイ^③キが広い。

4 建築シザ^④イを確保する。

5 無人島に漂着^⑤する。

6 患者の健康状態を診^⑥る。

7 害虫を駆除^⑦する。

8 今にも雪の降りそうな曇天^⑧だ。

5

次の、中学生の中山さんと安田さんの会話の一部を読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。

中山 最近、ジムさんは日本語に慣れてきたようだね。先生から日本語サポーター役に任命された安田くんのおかげだね。

安田 からかわないでくれよ。家が近いということで先生に頼まれたときは、不安で仕方がなかったよ。

中山 そうなんだね。それでジムのサポーターはどうなの。

安田 大変だよ。この前だって、「冷める」と「冷える」は、どう違うのか質問されてしまうし…。辞書で調べても、どちらも「温度が下がること」としか載っていないんだ。

中山 それでどう答えたの。

安田 仕方がないから、いくつか例を出したよ。温かいスープは、放っておくと「冷める」とは言うけれど、「冷える」とは言わないよとか、ジュースのときは反対だよとか…。

中山 それで、ジムさんは分かってくれたの。

安田 彼には恐れ入ったよ。ぼくの説明だけでは納得がいなくて、他の人たちの使い方を調べていくうちに、しまいは自分なりに「冷める」^③と「冷える」を区別する基準を一枚の紙にまとめてしまったんだから。ぼくのほうが、勉強になったよ。

1 線部①の品詞名を答えよ。

2 線部②「恐れ入った」と同じ意味を表す熟語を次から選び、記号で答えよ。

ア 服従 イ 感服 ウ 恐怖 エ 同情

3 次の文は、——線部③「『冷める』と『冷える』を区別する基準」

について説明したものである。□にあてはまる言葉を「常温」という語を用いて十字以内で書け。

物が「冷める」とは、温度が下がり常温に近づくことであり、「冷える」とは、□ことである。

4 次の行書で書かれた漢字の中で、「筆順の変化」が見られるものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 変
イ 温
ウ 納
エ 枚

6 次の文章は、敬語の使い方についての一つの意見である。このことについてのあなたの考えを、あとの(1)～(4)の条件に従って書きなさい。

敬語を使うと、自分の気持ちが素直に表せない気がする。むしろ、敬語を使わないほうが自分らしさを表現できる場合もあるのではないだろうか。

条件

- (1) 二段落で構成し、六行以上八行以下で書くこと。
- (2) 第一段落には、意見に対するあなたの考えを書くこと。
- (3) 第二段落には、第一段落のように考える根拠を、体験や見聞を含めて書くこと。
- (4) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

